

## 報 告

# 山口県萩市、小学校統合化による新校歌 —萩市立福栄小学校 校歌—

山田 真治\*1

キーワード：言葉、イントネーション、地域文化、間奏、バランス

## 1 はじめに

山口県萩市は、人口減少の影響で小中学校の児童、生徒が近年急激に減少している。萩市教育委員会の調査<sup>1)</sup>では、平成24年度が小学校2,220人、中学校1,271人合計3,491人、平成25年度が小学校2,176人、中学校1,188人合計3,364人、平成26年度が小学校2,110人、中学校1,138人合計3,248人、平成27年度が小学校2,019人、中学校1,110人合計3,129人の児童、生徒となっている。<sup>註1</sup>過去3年間では362人の児童、生徒が減っており、減少率では約10%の割合で子供が少なくなってきた。

人口減少という実態に伴い、萩市では平成28年度から学校が統合されることになり、2校の新学校が誕生することになった。1校は、萩市立紫福小学校と萩市立福川小学校が統合され、「福栄小学校」となる。もう1校は、萩市立佐々並中学校が平成25年度から萩市立明木中学校に吸収され明木中学校として授業を行っていたが、平成28年度、校舎新築を機会に「旭日中学校」になる。

開校に当たり、萩市教育委員会より福栄小学校の校歌作曲の依頼があった<sup>註2</sup>。私は依頼文を受けた当初、戸惑いを感じる一方で、作曲家中田喜直(1923~2000)<sup>註3</sup>氏の言葉を思い出した。中田氏は、歌を作るときの考えの下に、「詩や言葉の持っているリズムを尊重し、そのまま自然に曲をつける」<sup>2)</sup>ということをよく言っていた。見方によれば合理主義な作曲技法のようにも取れるが、中田氏は日本語の美しさ、イントネーションの大切さを歌の中で表現できるよう緻密な作曲技法

を取り入れていたのである。しかし、校歌を含む現存の歌が、詩や言葉の持っているリズムを如何に大切に、作られたかは大変疑問である。

このようなことから、私は中田喜直氏の作風を取り入れながら子供たちに歌いやすい、日本語を大切にしたい校歌を作成することにした。

## 2 作詞者について

作詞者は、萩市教育委員会が選出した現役教員の白澤真史(しらさわ まさふみ)氏である。

1962年6月2日生まれ 山口県長門市在住

### 【職歴】

1986(昭和61)年山口県阿武郡福栄村立紫福中学校勤務。以来萩市立大島中学校、油谷町立菱海中学校、油谷町教育委員会、萩市立萩東中学校、長門市立深川中学校勤務。現在、山口市立湯田中学校教頭。

### 【制作歴】

福栄村紫福保育園 園歌 作曲

萩市大島ケーブルテレビテーマソング作詞、作曲  
演歌「大島情話」作詞、作曲

キングレコード：原たかし 歌唱

萩東中学校 応援歌 作詞、作曲

萩市大島保育園 園歌 作詞、作曲

### 【受賞歴】

2002年2月 萩市のうた 作詞 優秀賞

2010年11月 山口県教育委員会主催、

金子みすゞ童謡詩コンクール 佳作

2011年3月 萩市民歌作詞 優秀賞

\*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

2011年11月 山口歌人協会短歌大会  
萩市教育長賞

### 3 作曲経緯

#### 3-1 メロディについて

調性は、小学生ということで、ハ長調を選択した。校歌の場合、調性そのものが問題視されることは少ないが、音域は重要である。小学1年生でも無理なく歌唱が可能音程、一点ド～二点レの範囲を使用することにした。

歌詞の文字数に配慮がなされ、綺麗に配列されていたため、リズム、音の割り振りは問題なく収めることができた。

メロディは、できるだけ歌詞のイントネーションに沿うよう配慮したが、やむを得ない歌詞については1番の歌詞イントネーションを優先することにした。

言葉のリズムを生かし、言葉が持っているリズムを極力使用するように努めた。

詩の内容で最も大切な部分に音高を高め、歌う子供たちのエネルギーが十分発揮できるよう楽曲構成に配慮した。

#### 3-2 伴奏について

伴奏は、難易度を上げず、児童も弾ける程度の楽曲にした。しかし、音楽的内容、和声、リズム等は決して児童だからという視点ではなく、借用和音<sup>3)</sup>を取り入れ等、音楽的な作品を目指すことにした。

伴奏<sup>4)</sup>は、メロディを支えるものであるが、決して薄いものであってはいけない。従って伴奏ではあるが、音楽的に前半から後半にかけて音の厚みを次第に厚くしていくように配慮した。

#### 3-3 間奏、後奏について

間奏については、萩市教育委員会と協議の結果、挿入することにした。既存の校歌ではあまり見かけないが、音楽的なことを考慮すれば存在した方が、曲の構

成バランスが良くなり芸術的に良い作品になる。

### 4 視聴結果

曲の完成は、2015年8月1日である。視聴して頂くため録音が必要となり、8月20日、宮城県仙台市の菅原学園専門学校デジタルアーツ仙台スタジオにて録音を行った。伴奏は、オーケストラに編曲<sup>3)</sup>し、ソプラノの独唱<sup>4)</sup>で録音制作<sup>5)</sup>を行った。

2015年8月27日、地区の実行委員会と地元市民の意見交換会が催され、視聴して頂くことになった。歌詞、メロディは歌い易く、覚え易く大変良い校歌であるという高評を得たが、地元市民の方から言葉の響きについての指摘が1ヶ所あった。それは「福栄・ふくえ」と言う言葉の響きであった。地元市民の方は「ふくえ」の「え」の発音を「切る」か「とめて」日常生活で使用しているが、歌を聴いていると「ふくえー」と聴こえてくるという指摘であった。楽譜では次のように記せられていた。



### 5 考察

地元市民の方の指摘により、メロディを何度も聴きながら教育委員会と再検討することになった。検討の結果、楽譜の「え」には、音が入っており、歌唱も確かに流れるように「えー」と歌われていた。通常の歌であれば音楽的には何も問題が無いことであり、寧ろメロディが優先されることにより自然な音の流れになっていた。しかし、言葉の持っているリズム、響きを重視する地元市民の方にとっては、大変重要な問題なので改めてメロディを検討することにした。

作曲を改めるにあたって懸念されることが出てきた。それは、メロディを変えることによって、全てのメロディを変えなければならない状況が起こり得るということである。何故なら楽曲のメロディには、エネルギー

一が注がれているため、エネルギーの消化も合わせて考えなければ全体に不自然さが生じ、バランスが非常に悪くなるからである。

幸いにもこの曲は、検討部分が最後の終止部分であったため、3ヶ所の音を変化させるだけでまとめることができた。また「ふくえ」の「え」の後に八分休符を入れたことにより、地元市民の方が指摘した発音の響きも希望に叶ったものとなった。次に示した楽譜は、再検討し改訂したものである。



## 6 おわりに

筆者は、この度の作曲で大変重要なことに気付くことができた。それは、文化という壁である。曲が出来上がり、地元市民の方に視聴して頂く機会がなかったら気づかなかったことであるが、地元の方々には言葉のイントネーションだけでなく、横の響きにも重要な文化があった。

曲を作る筆者は、大切と思う歌詞を「学ぶ、喜び、未来、この道、命、尊さ、清らか」であると思っていたが、地元市民の方は、「福栄・ふくえ」の「え」に拘りを持っていた。筆者は、地名としての「福栄・ふくえ」は認識していたが、横の響きまでは認識を持っていなかった。しかし、地元市民の方は、筆者とは違った捉え方をしており、そこに文化が有ったのである。言いかえれば如何に、地域を愛し、誇り高く思っているかという裏付けではないだろうか。

今後は、言葉のイントネーションだけではなく、言葉の響きにも留意しながら作品を作っていきたいと思っている。

## [註]

- 註1 平成25年度、26年度、27年度山口県萩市教育委員会の「萩・お宝活用プロジェクト」より資料の提供があった。
- 註2 平成26年12月5日付けで萩市教育委員会から校歌作曲の依頼文が届いた。
- 註3 作曲家、長屋宏弥氏が編曲
- 註4 ソプラノ、村上彩子
- 註5 Director、mastering Engineer：比留川純夫

## [引用・参考文献]

- 1) 萩市教育委員会提供資料；平成25年度、平成26年度、平成27年度学校別児童・生徒数
- 2) 牛山剛；夏がくれば思い出す，新潮社，2009，116
- 3) 中田喜直；おひさまいっぱい，音楽出版ハッピーエコー，1994，6-94
- 4) 中田喜直；20世紀の童謡110選，カワイ出版，1992，8-225

# 福栄小学校 校歌

白澤 真史 作詞  
山田 真治 作曲

♩=100 ca.

5 はずむように

か	ぜ	そ	よ	ぐ	お	か	く	も	わ	た	る	そ	ら	き	ほ	ー	う
み	ず	き	よ	き	か	わ	こ	が	ね	の	い	な	ほ	ゆ	め	ー	を
は	な	か	お	る	み	ち	し	あ	わ	せ	の	さ	と	い	の	ー	ち

10

ふ	く	ら	む	こ	う	て	い	に	み	ど	り	い	ろ	こ	く	と	り	は	さ	え	ず	る
は	ぐ	く	む	あ	さ	ゆ	う	に	あ	す	を	み	つ	め	る	ひ	と	み	か	が	や	く
き	ら	め	く	ふ	る	さ	と	に	え	が	お	ひ	ろ	が	る	ひ	と	は	や	さ	し	く

福栄小学校 校歌

15

みんな でまなぶ よろこびを うた おう いつ も さわ や か  
 みらい へつづく このみちを ある こう と も と さす こ や か  
 いっしょに いきる どうとさ を まも ろう こ こ ろ き よ ら か

20

に あー あー われらの ふくえ しょうがつ っ  
 に いー ぎー われらの ふくえ しょうがつ っ  
 に そー うー われらの ふくえ しょうがつ っ

1.

25

っ  
 っ

2.

30

っ  
 っ

3.

*rit.*

# 福栄小学校 校歌

作詞 白澤 真史

## 歌 詞

一、 風そよぐ丘 雲わたる空

希望ふくらむ 校庭に

緑色濃く 鳥はさえずる

みんなで学ぶ 喜びを

歌おう いつもさわやかに

ああ 我らの福栄小学校

三、 花香る道 幸せの里

命きらめく 故郷に

笑顔広がる 人は優しく

一緒に生きる 尊さを

守ろう 心清らかに

そう 我らの福栄小学校

二、 水清き川 黄金の稲穂

夢を育む 朝夕に

明日をみつめる 瞳輝く

未来へ続く この道を

歩こう 友と健やかに

いざ 我らの福栄小学校